

<質疑応答>

○NBC

先生が不足している要因・理由が何かを分析されていますか。

○教育長

全国的に教員採用試験の倍率が、相当下がっています。佐賀県の教員採用数は、平成になり100人台、平成25年くらいから200人台、令和では300人以上です。これは、定年退職者が増え、それを補うために増えました。その中で、倍率が下がっているのが要因だと思います。

教員に限らず、我が国では様々な業種で人材不足です。その中で、条件のいい民間に人材が流れ、教員を目指す人が減っているところもあると思います。

また、教員の仕事が厳しいと感じ、教育学部に進んでも教員を目指さない学生もいらっしゃると聞きます。これらの要因が重なって、厳しい状況になっていると思います。

○NBC

SAGAインターハイを支える高校生に期待することをお聞かせください。

○教育長

インターハイ、国スポのような大きな大会が佐賀県で行われることは、なかなかないこと。この機会に、できるだけ多くの高校生が積極的に参加し、あの年に佐賀の高校生でよかったと思える年にしたい。

部活に関わっている生徒は、競技や競技補助で参加します。それ以外の高校生にも、支える側で主体的に参加してもらいたい。高校生が主役ですので、自ら取り組んでほしい。

○日経新聞

日本の制度では、留学生は出席しても卒業資格は取れないそうです。逆に、日本の高校生が留学すると、アメリカでは英語が話せなくても出席するだけで卒業資格が取れ、大学にも進学ができます。これに関してどうお考えでしょうか。

○教育長

これから先の国際化社会を考えると、日本の教育全体を国際基準に合う形でリニューアルする必要があると思います。現状では、現在の制度で認められる中で、子どもたちのニーズに添えていきたいと考えています。来年の入試に向けた改善点では、留学生扱いではなく、正式な高校生として受け入れるための枠、あるいは入試の方法を考えたいと思います。

○佐賀新聞

定例会見を開くことにした経緯や、会見で直接伝えたいことを教えてください。

○教育長

当初予算の際には、その年の教育委員会としての重点的なプロジェクトを中心に発表しました。それだけでは政策に込めた思いや考えが、なかなか浸透しないという気持ちがありました。例えば、部活動改革では、国は地域移行を強く言いますが、私たちはそれに限らず全体を応援したいと思っています。それが、市町教育委員会にさえなかなか正確に届かない。それで、もっと情報発信に力を入れる必要があると思い、このような場を設けるべきだと判断したわけです。

○読売新聞

ペーパーティーチャーにターゲットを定めたのは、ここに潜在的なニーズがあるのか、何か意図があるのでしょうか。

○教育長

教員採用試験は、以前は難関でした。当時、合格できずにほかの道に進んだ方も多くいらっしゃるはず。また、大学卒業時にはほかの道を選んだけれども、現在教員に関心をお持ちの方もいらっしゃるかもしれない。そのような人たちに、教職に目を向けていただき、その気持ちがあればチャレンジしてほしい。ニーズがあるとみているわけではなく、掘り起こしをしたいと考えました。

○記者

現在、具体的な教員の待遇改善をしているのか、今後計画があるのかを教えてください。

○教育長

教職員の待遇は、公務員制度全体の中で、給与体系も含め定められているので、県が独自に改善するのは難しいところです。

数年前から、働き方改革に取り組んでいます。教員の仕事の性格上、授業準備や部活動指導など仕事に限りがなく長時間労働になっています。持続可能な形で仕事をするためには、先生方に時間の意識をもってもらい、時間内に仕事を収める取組みとして、県立学校で出勤管理のシステムを稼働し2年になります。

また、学校に対する期待が大きく、いろんなことを学校が抱えています。もう少し、社会全体で役割分担を考えていく必要があるのではないのでしょうか。教員だけでいろんなことをやろうとせず、部活動や事務補助的などところに、外部のサポートを入れ、教員が子どもに向き合う時間を作る。子どもに教える以外の仕事を、できるだけ軽くしていく取組みを順次進めています。

○NHK

ニューヨーク市の教育委員会は、教育現場で子どもたちのチャットGPT使用を禁止しています。佐賀県教育委員会は、教育現場での使用方法をどのようにお考えでしょうか。

○教育長

AIやチャットGPTは、ツールだと思います。新しいツールと教育が、無縁ではられないと思います。ツールは、使い方次第でよくも悪くもなるので、教育現場で、しかも子どもたちがどう使っていくかは、まだ世の中全体で悩んでいる状況です。

先日、個人的に自分の携帯で試してみました。回答の中には間違った内容もありました。全く知らないことを尋ねて、もっともらしく答えが出たとき、何が正しくて何が間違っているかわからないと思います。

教育委員会としての取り組みは、文科省から示されるガイドラインや全国的な動きを見ながら正式にまとめたいと考えています。

○STS

県立大学の進捗の状況を言える範囲でお願いします。

○教育長

それは、教育委員会の所管ではないので、私が答える立場にありません。